※この文書は、Webレイアウト（Wordの[表示]リボンから[文書の表示]グループの[Webレイアウト]）で閲覧することをお勧めします。

以下は、silentinputの特殊機能を試すための請求項サンプルです。請求項１から６まで、サンプルが記載されています。適当に眺めて下さい。

【請求項１】

　本体に消しゴムを付設したことを特徴とする鉛筆。

【請求項２】

　前記消しゴムは、当該鉛筆本体の長手方向一端側に付設されている請求項１に記載の鉛筆。

【請求項３】

　請求項１又は請求項２に記載の鉛筆であって、前記消しゴムは締結体を介して鉛筆本体に固着されていることを特徴とする鉛筆。

【請求項４】

　請求項３の鉛筆であって、前記締結体は金属製であることを特徴とする鉛筆。

【請求項５】

　請求項１、２、３、又は４に記載の鉛筆であって、鉛筆本体は、その長手方向に垂直な断面が六角形に形成されていることを特徴とする鉛筆。

【請求項６】

　請求項１乃至４記載のいずれかの鉛筆であって、鉛筆本体は、その長手方向に垂直な断面が円形に形成されていることを特徴とする鉛筆。

①まず、このサンプル文書に、silentinputのテンプレートを適用してください。やり方は、文書の適当な位置にカーソルをおいて（どこでも良いです）、[Ctrl]＋[Alt]＋[F11] を入力します（[Ctrl]と[Alt]とを両方押さえながら[F11]を押します）。現れるメニューから pdSI.dotmを選択します。

[Ctrl]＋[Alt]＋[F11] が上手くいかない場合、[Ctrl]＋[Alt]＋[\] を試してみて下さい。

②次に、請求項の従属表現の自動入力機能を試します。下にある請求項７の内容の「～特徴とする」の直後にカーソルをおいて[Ctrl]＋[Shift]＋[J] を入力し、d と打って[Enter]を入力します。どの請求項に従属させるか、候補から適当に選択します。従属表現が（可能な場合は、発明の名称とともに）自動的に入力されます。

【請求項７】

　前記締結体は金属製であることを特徴とする

以下も、請求項サンプルです。請求項８と９が記載されています。

【請求項８】

　締結体を消しゴムに圧着する第１工程と、前記締結体を鉛筆本体に圧着する第２工程と、を少なくとも含む、消しゴム付き鉛筆の製造方法。

【請求項９】

　請求項８に記載の消しゴム付き鉛筆の製造方法であって、前記締結体又は前記消しゴムの少なくとも何れか一方に接着剤を塗布する工程を更に含む、消しゴム付き鉛筆の製造方法。

③次に、発明の名称の自動入力機能を試します。

文書のどこか（例えば、下記の発明の名称の欄）にカーソルをおいて [Ctrl]＋[Shift]＋[J] を入力し、n と打って[Enter]を入力します。silentinputが提示した候補から適当な名称を選んで入力できます。この機能は、請求項や発明の名称の欄等、様々な部分で使うことができます。

【発明の名称】

④次に、請求項の従属解析機能を試します。

[Alt]＋[J]を入力して「ツール群」を選択し、現れるダイアログで「レポート・情報」タブをクリックして、「請求項従属ツリー」をクリックします。請求項の従属構造を解析したレポートが作成され、請求項がどの請求項に従属しているか等を視覚的に把握できます。レポートを一通り眺めたらもうレポートは要らないので、レポートを保存せず閉じます。

⑤次に、数値展開入力フォーマットの機能を試します。

文書のどこでも良いのですが、例えば次の「～説明する。」の行のすぐ下の行にカーソルをおいて[Alt]＋[J] を入力し、[特殊機能]→[フォーマットの数値展開入力]を選択します。現れるフォーマットの一覧（いくつか登録されています）から「解決手段と効果（サンプル）」という行をクリックして[選択]ボタンをクリックします。展開する数値範囲を問い合わせてきますが、請求項１から請求項９までが既にsilentinputにより初期設定されているので、そのまま[OK]をクリックします。1-9の数値を展開した形でフォーマットが繰り返し入力されます。段落番号を振り直すかどうかを尋ねてきますが、[はい][いいえ]のどちらでも良いです。これが数値展開入力の機能です。

【課題を解決するための手段及び効果】

　【０００１】

　本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段とその効果を説明する。

ちなみに、あとは請求項の内容の自動引用入力機能（フォーマットドライブと呼んでいます）になりますが、上で入力された「●１」「●２」…のそれぞれの直後にカーソルをおいて[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。請求項の内容が適当に整形されて入力されます（今回はたまたま上手くいきますが、請求項の書き方によっては、日本語的に不自然な整形となる場合もあります。そのときは適宜修正して下さい）。請求項が独立項か従属項かで、入力されるフォーマットが異なっている点にも注目してみてください。

数値展開入力フォーマットや、自動引用入力フォーマットは、新規登録したり変更したりできます。詳しくはヘルプを参照して下さい。

段落番号は、[Alt]＋[J] を入力し、[特殊機能]→[段落番号の振直し]を選択することで、振り直すことができます。

⑥次に、上付き／下付きの一括設定機能を試します。

すぐ下の部分に、「ＳＯ４２－」が２箇所入力されています。このうちの１箇所の「ＳＯ４２－」（どちらでも良いです）を選択した状態にしておきます。

ＳＯ４２－　　多原子イオンである硫酸イオンＳＯ４２－

[Alt]＋[J]を入力して「ツール群」を選択し、現れるダイアログで「体裁・番号」タブをクリックし、そのタブの上下中央あたりにある「上付き／下付き一括設定」をクリックします。

新しく現れるダイアログでは、選択された文字が予め入力されているはずです。その入力されている「ＳＯ４２－」の「４」の部分だけを選択して[下付き]をクリックして、下付きの状態にします。また、「２－」の部分だけを選択して[上付き]をクリックして、上付きの状態にします。

一括設定実行をクリックします。文書の「ＳＯ４２－」が全て検索され、指定した上付き／下付き文字が設定されます。

⑦次に、使用可能な文字のチェックを試します。文書のどこでもよいからカーソルを置いて [Alt]＋[J] を入力し、[ツール群]を選択します。現れるダイアログで、「体裁・番号」タブの「使用可能文字のチェック」をクリックします（前述の「上付き／下付き一括設定」のボタンの隣です）。丸付数字やギリシャ文字、■など、パソコン出願ソフト（インターネット出願ソフト）で使えない文字を検出してくれます。

　ⅰ　■　▲

⑧次に、クイックジャンプ機能を試します。[Alt]＋[Shift]＋[J]を入力すると、明細書の適当な見出しが検索されて、メニューとして表示されます。メニューを選択すると、その検索された見出しにジャンプできます。何を検索するかは、[クイックジャンプ設定]を選択することで、ある程度指定できます。

⑨次に、請求項等の番号の加算／減算置換え機能を試します。

文書のどこでもよいからカーソルを置いて [Alt]＋[J] を入力し、[ツール群]を選択します。現れるダイアログで、「体裁・番号」タブをクリックし、そのタブの一番下にある「符号以外；」の横にある「スライド置換え」をクリックします。

最初に現れるダイアログでは「図○」等いろいろ選択できますが、今回は「請求項○」を選択して（最初から選択されている場合はそのままでOKです）、「次へ」をクリックします。

次のダイアログでは、例えば「～から～までの番号のみを置き換える」を指定し、「～から」には「2」を指定し、「～まで」は「100」のままとし、「増分」には「2」を指定します。つまり、請求項２から請求項１００までを＋２するということです（ダイアログで表示されるプレビューを見ながら指定すればわかり易いです）。「置換え実行」をクリックします。確認のダイアログで「はい」を選択します。置換えが行われます。

この文書を上下にスクロールさせて、置き換えられた数字（黄色の蛍光ペンが付されています）を確認します。

この機能が便利な典型的な場合としては、例えば請求項１の直後に請求項を２つ追加する必要が生じて、請求項２以降を２ずつ繰り下げたいような場合です。例えば、図４を削除したので図５以降を１ずつ繰り上げたい場合にも使えます。

※注意

・請求項等の番号加算／減算置換え機能は、請求項の内容も含めて明細書の多数箇所を書き換えてしまう、ある意味危険な機能です。

・冒頭の請求項サンプルの置換え結果にあるとおり、殆どの請求項引用表現は置換えが可能です。しかし、複雑な表現は置換えができない場合があります。例えば、「請求項１～１３（６を除く。）、１６、１７の何れか１項に記載の」というような複雑な表現では、置き換えられるべき６、１６、１７の数字は置換え漏れになってしまいます。

この機能を使用する際は必ず、意図どおり置き換わっているかのチェックを自己責任で十分に行うようにして下さい。

⑩次に、提出日の自動入力機能を試します。

すぐ下の行に、提出日の欄が記載されています。この欄の行の末尾にカーソルを置いて、[Ctrl]＋[J] を入力します。メニューから日付を選択すると、ＰＣの内部時計に基づいて簡単に日付を入力できます。まだ提出日が決まっていない場合に備えて、■月■日のような日付も入力できます。

【提出日】

⑪次に、識別番号のチェックディジット検査機能を試します。

下の方に２つの識別番号の欄があり、既に識別番号が記載されています。例えばこの欄の行の末尾にカーソルを置いて、[Ctrl]＋[J] を入力してみてください。silentinputは、入力されている識別番号に対し、チェックディジット検査を自動的に行って結果を表示します。これにより、識別番号の誤入力を簡単にチェックできます。

２つの識別番号のうち、上側が正確なもので、下側が誤入力されたものです。両方で [Ctrl]＋[J] を入力し、メッセージを確認してみて下さい。

【識別番号】　１００１１８７８４

【識別番号】　１００１１８８７４

⑫最後に、この文書へのsilentinputテンプレートの適用を解除します。[Ctrl]＋[Alt]＋[F11] 又は [Ctrl]＋[Alt]＋[\] を入力して、現れるショートカットメニューから、一番上のNormal.dotmを選択します。このファイルは、保存しないで閉じてしまってOKです。